

| | | | |
|----------------|-----------------------|------|-------------|
| ○事業所名 | 国立病院機構新潟病院 通所事業所 たんぼぼ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年1月22日～2026年2月20日 | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 放デイ4 | (回答者数) 放デイ3 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年1月29日～2026年2月20日 | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 14 | (回答者数) 14 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年3月17日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 対象者を重症心身障害児とし、医療度の高い利用者の受け入れを行っている | 人工呼吸器、気管切開、胃瘻、経鼻栄養、酸素マスク使用者等、医療度の高い利用者を受け入れている。安全に利用していただくため、医師や外来担当者を含めた急変時対応シミュレーションを実施している | 多様なケースを想定したシミュレーションの継続と必要に応じた医療機器の購入、導入を図りたい |
| 2 | 利用者の発達、体調、特性などに考慮した療育プログラムを実践している | ゲーム、製作、カラオケ、動画鑑賞、大型遊具などの他、季節の行事を行い、様々な体験ができるようにしている。その中で、他利用者との交流を目的とした活動も提供している | 活動計画を職員全体で検討、共有し、より楽しんでもらえたり、利用者の持っている力を発揮できるような内容を増やしていく |
| 3 | 多くの関係部署(多職種)が参加した情報共有の打ち合わせを実施している | 2か月に一度、主治医、看護部(外来、地域連携含む)、経営企画、医事、リハ・栄養部門、療育が参加し、通所ワーキングの会議を開催している | 月に1回、当事業所に関わる看護、療育で「たんぼぼ会」を開いており、通所ワーキングとの相互、情報共有を図っていきたい |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|---|
| 1 | 多機能型で運営している中、現在各曜日とも利用者受け入れ人数の上限に近い | 場所(スペース)と職員の配置人員から受け入れ人数に限界があり、保護者から「他の曜日を利用したくても定員オーバーで預かってもらえないので職員を増やしてほしい」との意見が上がる | 場所、人員の限界があり、他の利用者のキャンセルが事前に分かっている時の利用を調整する方法を検討していく |
| 2 | 地域とのつながりが薄い | 新型コロナウイルス流行による院内の感染対策で利用者との接触が制限され、交流がなくなった | 感染対策が緩和されてきたため、ボランティアの受け入れ等を通し、地域とのつながりを作っていく |
| 3 | 家族へ安全計画の周知がされていない | 安全計画の周知は職員に留まっている | 通所時に安全計画マニュアルを見てもらい、それに沿った対応をしていることを伝えていく |